

産業廃棄物処理計画書

平成24年6月20日

大分県知事 殿

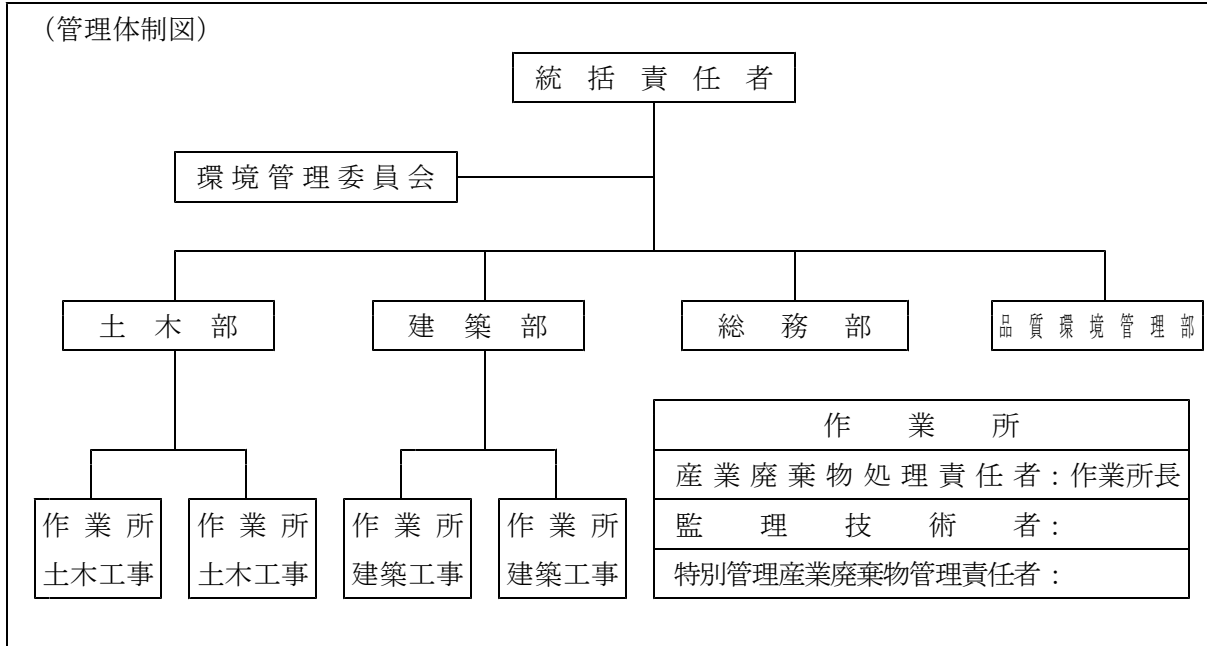
提出者
住 所
氏 名
（法人にあっては名称及び代表者の氏名）
電話番号 097-534-4151（内線）300
（担当部署）品質環境管理部

大分市舞鶴町1丁目4番35号(大分三井ビル)
梅林建設株式会社
代表取締役社長 梅村秀伍

廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第9項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。

事業場の名称	梅林建設株式会社
事業場の所在地	大分市舞鶴町1-4-35（大分三井ビル） TEL 534-4151
計画期間	平成24年4月1日～平成25年3月31日
当該事業場において現に行っている事業に関する事項	
①事業の種類	(大分類D) 建設業 日本標準産業分類番号 総合工事業/一般土木建築工事業 0611
②事業の規模	完成工事額：242億円【平成23年度】
③従業員数	400名
④産業廃棄物の一連の処理の工程	別紙の通り

産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項



産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

①現状	【前年度（平成23年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	別紙の通り	
	排出量	17,791 t	
	(これまでに実施した取組) ・設計及び施工計画段階において廃棄物の発生抑制を考慮した工法、資材等を採用する。 ・木製型枠の転用回数を増やし、型枠ごみの発生を抑制する。		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	別紙の通り	
	排出量	16,396 t	
	(今後実施する予定の取組) ・プレカットしての搬入により、残材の発生を抑制する。 ・施工材料の搬入数量を適正に管理する。 ・再使用できる梱包材の使用を求め、梱包ごみの発生を抑制する。		

産業廃棄物の分別に関する事項

①現状	(分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) ・分別している産業廃棄物：廃石膏ボード ・廃棄物を再生処理施設へ委託し、自らも再生資源を積極的に使用する。 ・作業所内で資材を繰り返し使用する。
②計画	(今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) ・金属くずは、再生利用のため分別を徹底する。 ・作業所内での分別を推進し、混合廃棄物となる割合の低減を図る。 ・石膏ボードは、再生処理業者へ委託する。(北九州市の処理業者に搬出)

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項

①現状	【前年度（平成 年度）実績】	
	産業廃棄物の種類	——
	自ら再生利用を行った産業廃棄物の量	—— t
	(これまでに実施した取組)	
②計画	【目 標】	
	産業廃棄物の種類	——
	自ら再生利用を行う産業廃棄物の量	—— t
	(今後実施する予定の取組)	

自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項

①現状	【前年度（平成 年度）実績】	
	産業廃棄物の種類	——
	自ら熱回収を行った産業廃棄物の量	—— t
	自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量	—— t
(これまでに実施した取組)		
②計画	【目 標】	
	産業廃棄物の種類	——
	自ら熱回収を行う産業廃棄物の量	—— t
	自ら中間処理により減量する産業廃棄物の量	—— t
(今後実施する予定の取組)		

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項

①現状	【前年度（平成 年度）実績】	
	産業廃棄物の種類	——
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った産業廃棄物の量	—— t
	(これまでに実施した取組)	
②計画	【目 標】	
	産業廃棄物の種類	——
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う産業廃棄物の量	—— t
	(今後実施する予定の取組)	

産業廃棄物の処理の委託に関する事項

①現状	【前年度（平成23年度）実績】	
	産業廃棄物の種類	別紙の通り
	全処理委託量	17,791 t
	優良認定処理業者への処理委託量	0 t
	再生利用業者への処理委託量	17,612 t
	認定熱回収業者への処理委託量	0 t
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	0 t
	(これまでに実施した取組)	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 処理内容を確認し、処理業者と適正な委託契約を締結する。 ・ 現在使用している電子マニフェストの普及、拡大を図る。 		

②計画	【目 標】		
	産業廃棄物の種類	別紙の通り	
	全 処 理 委 託 量	16,396 t	t
	優良認定処理業者への 処 理 委 託 量	0 t	t
	再生利用業者への 処 理 委 託 量	16,131 t	t
	認定熱回収業者への 処 理 委 託 量	0 t	t
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処 理 委 託 量	0 t	t
	(今後実施する予定の取組) ・ 2 者契約を徹底し適正な委託料金を確保する。 ・ マニフェスト伝票の管理を徹底する。 ・ 現在使用している電子マニフェストの普及、拡大を図る。		
※事務処理欄			

備考

- 1 前年度の産業廃棄物の発生量が1,000トン以上の事業場ごとに1枚作成すること。
- 2 当該年度の6月30日までに提出すること。
- 3 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。
 - (1)①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
 - (2)②欄には、製造業の場合における製造品出荷額(前年度実績)、建設業の場合における元請完成工事高(前年度実績)、医療機関の場合における病床数(前年度末時点)等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。
 - (3)④欄には、当該事業場において生ずる産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程(当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。)を記入すること。
- 4 「自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。
- 5 「産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者(廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第6条の11第2号に該当する者)への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者(廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者)である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。
- 6 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、産業廃棄物の種類が3以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「－」を記入すること。
- 7 ※欄は記入しないこと。

別紙 産業廃棄物の一連の処理の工程

No.1

No.2

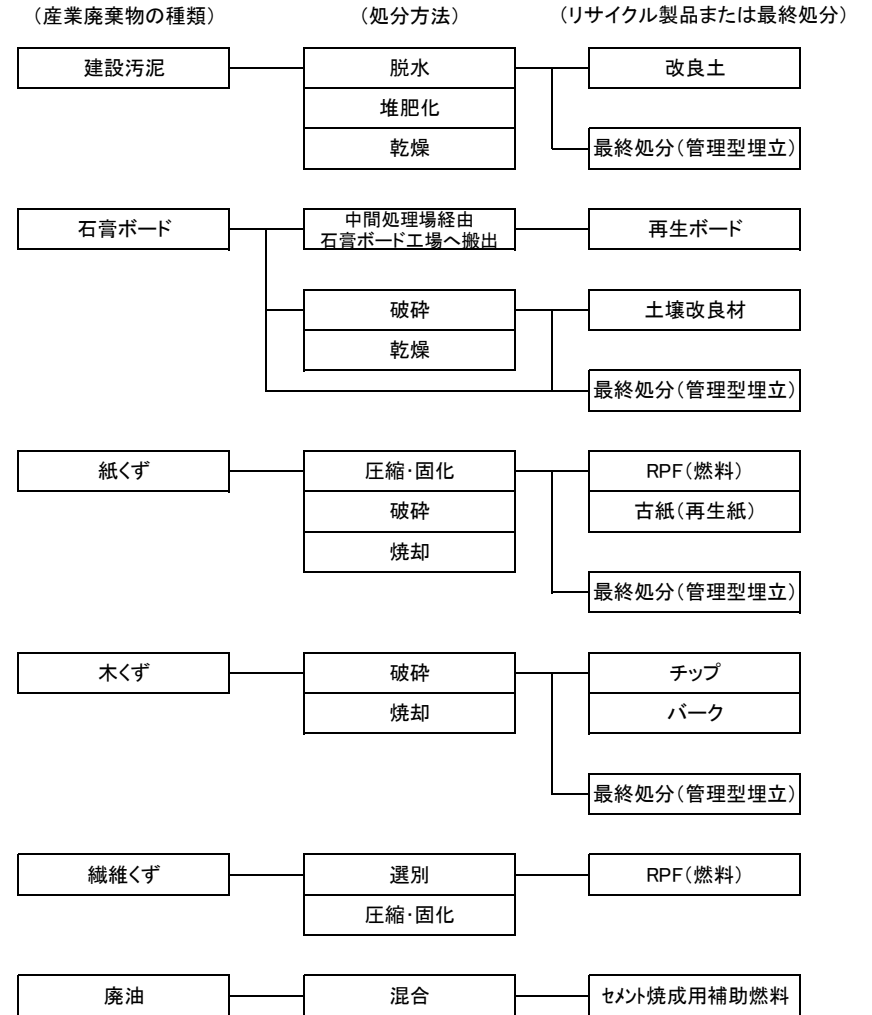
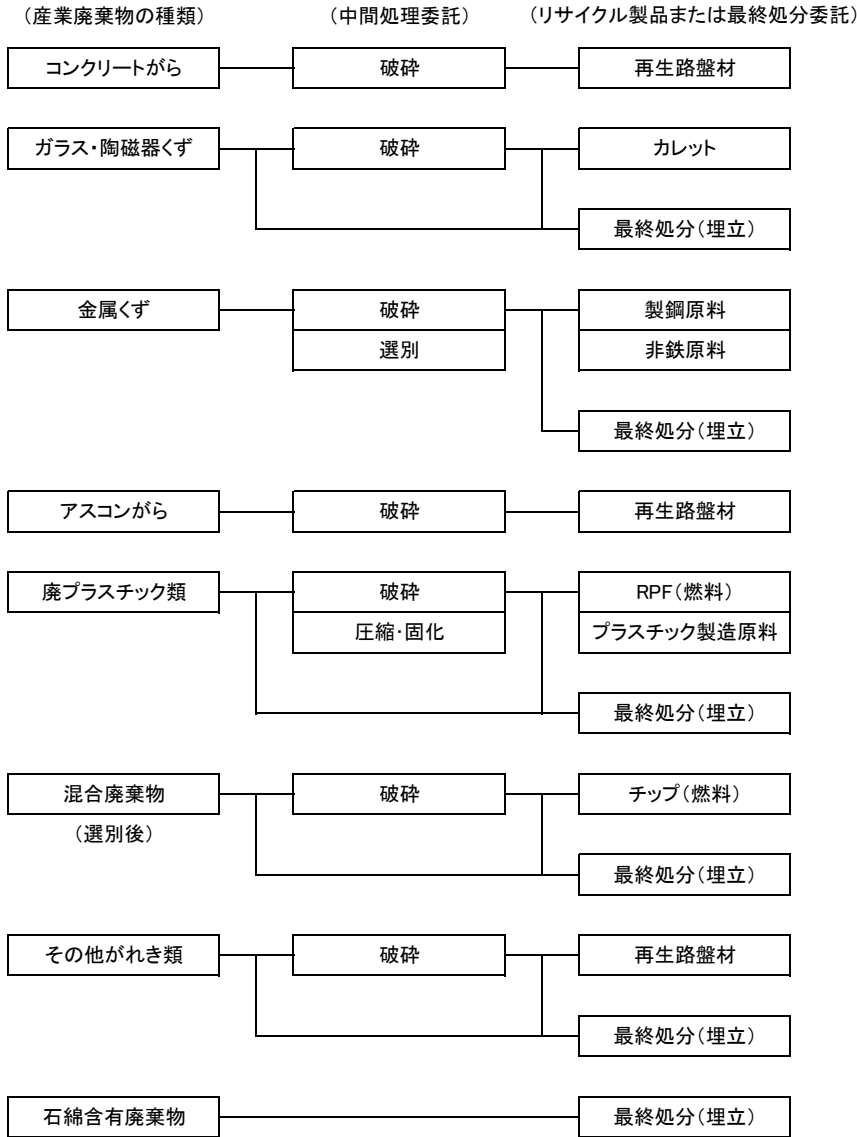


表 1

平成 2 3 年度排出実績(大分市を除く大分県内について)

単位：t/年

廃棄物の種類	実績 [H22 前 年 度 排 出 量]	実績 [H 2 3 年度] (上段の数値は 2 3 年度の計画値)							
		本年 排 出 量	中 間 処 理 量	中 間 処 理 量			直 接		総 減 量
				中 間 処 理 後			再 生 利 用 量	最 終 処 分 量	
				再 生 利 用 量	最 終 処 分 量	減 量			
コンクリートくず	5,892	13,888	13,888	13,888	0	13,888	0	0	13,888
ガラス・陶磁器くず	61	122	30	30	0	30	0	70 92	0 30
金属くず	215	139	139	139	0	139	0	0	139
木くず (チップ化) (縮減化)	540	— 598	— 598	チップ 縮減 — 598 縮減 0	— 0 10%灰 0	— 598 0	— 0 0	— 0 0	— 598
アスファルト塊	822	1,103	1,103	1,103	0	1,103	0	0	1,103
廃プラスチック類	208	239	235	141	60%再生 94	141	0	4	141
混合廃棄物	303	779	779	0	779	0	0	0	0
建設汚泥	2,108	19	19	0	19	0	0	0	0
石膏ボード	478	565	565	0	565	0	0	0	0
紙くず (チップ化) (縮減化)	119	— 110	— 110	チップ 縮減 — 110 縮減 0	— 0 10%灰 0	— 110 0	— 0 0	— 0 0	— 110
繊維くず	1	4	4	0	4	0	0	0	0
その他がれき類	307	222	141	0	141	0	0	81	0
廃油	1	1	1	1	0	1	0	0	1
石綿含有廃棄物	7	4	0	0	0	0	0	4	0
その他	1	0	0	0	0	0	0	0	0
合 計	11,062 前年比	17,791 60.8%増	17,612	16,010	1,602	16,010	0	181 (縮減率)	16,010 (90.0%)

表 2 平成 24 年度排出目標(大分市を除く大分県内について)

単位：t/年

廃棄物の種類	実績 [H23 年度] 基準 排出量	計画 [H24 年度目標値]							
		発生 排出 量	処 理 量	中間処理量			直 接		総 減 量
				中間処理後			再 生 利 用 量	最 終 処 分 量	
				再 生 利 用 量	最 終 処 分 量	減 量			
コンクリートくず	13,888	13,000	13,000	13,000	0	13,000	0	0	13,000
ガラス・陶磁器 くず	122	110	0	0	0	0	0	110	0
金属くず	139	120	120	120	0	120	0	0	120
木くず (チップ化) (縮減化)	598	500	500	チップ 400 縮減 90	0 10%灰 10	400 90	0 0	0 0	490
アスファルト塊	1,103	1,000	1,000	1,000	0	1,000	0	0	1,000
廃プラスチック類	239	200	200	120	80	120	0	0	120
混合廃棄物	779	700	700	0	700	0	0	0	0
建設汚泥	19	10	10	0	10	0	0	0	0
石膏ボード	565	500	500	0	500	0	0	0	0
紙くず (チップ化) (縮減化)	110	100	100	チップ 70 縮減 27	0 10%灰 3	70 27	0 0	0 0	97
繊維くず	4	2	0	0	0	0	0	2	0
その他がれき類	222	150	0	0	0	0	0	150	0
廃油	1	1	1	1	0	1	0	0	1
石綿含有廃棄物	4	2	0	0	0	0	0	2	0
その他	0	1	0	0	0	0	0	1	0
合 計	17,791	16,396	16,131	14,711	1,303	14,828	0	265	14,828